

Renewal  
Open

デザイン工房リニューアル

# デザイン工房 リニューアルオープン

[期日] 2016年3月8日(火)

[会場] 富山県総合デザインセンター



2016年3月8日、富山県総合デザインセンター「デザイン工房」は、最先端の3Dプリンター2台などを新たに導入し、リニューアルオープンしました。当日にはセレモニーが行われ、関係者約40人が工房を見学。設備説明会・見学会にも約40人が参加しました。また2月24日には、リニューアルオープンを記念した「3Dプリンター活用セミナー」が開催されました。



今回のリニューアルでは、県内企業から要望が高まっていた3Dプリンターなどの最新設備を導入。高精細な樹脂モデルやロストワックス鋳造型の製作など、これまでできなかった試作が可能となりました。

オープニングセレモニーでは石井隆一富山県知事が「ものづくりにおいてデザインの果す役割はますます重要なものとなりつつある。県内の伝統産業や先端産業にもデザイン重視の流れがある。今回導入した最新鋭の機器を活用することで、飛躍の足がかりにしてほしい」と挨拶。富山県総合デザインセンター大矢寿雄所長による整備概要の説明に続き、高橋正樹高岡市長、山下清胤県アルミ産業協会会長が祝辞を述べました。



## [オープニングセレモニー]

10:00~11:00

## [設備説明会・見学会]

11:00~11:40

3Dプリンター解説「ProJet3500 HD MAX」

11:50~12:30

3次元測定機解説「COMET L3D 8M」

12:30~13:00

デザイン工房設備見学会

スケジュール

## 最新設備が加わり“試作”機能がさらに充実。

今回新たに導入したのは、3Dプリンター2台(UV硬化樹脂造形用、精密鋳造原形用)をはじめとする4設備。従来からのCADシステムやモデリングマシン、マシニングセンタなどとともに充実した試作設備で、商品開発を支援します。



### 高精細3Dプリンター(UV硬化樹脂)

樹脂素材を最小0.016mmの積層ピッチで造形する高精細3Dプリンター。造形品は塗装、接着等の後加工ができ、色合いの表現や他種材料との組合せが可能です。

### 高精細3Dプリンター(ワックス)

ワックス素材を最小0.016mmの積層ピッチで造形する高精細3Dプリンター。造形品は精密鋳造の原型として利用でき、開発段階の作業工程を大幅に削減できます。

- 造形範囲:W298×D185×H203mm
- 積層ピッチ:UV硬化樹脂 0.016、0.029、0.032mm/ワックス 0.016、0.020、0.033mm
- 機種名:UV硬化樹脂 ProJet 3500HD MAX/ワックス ProJet3500CPX MAX

### 3次元テクスチャー加工システム



物体の形状をスキャンし、3Dデータ化する設備です。「木目」や「布目」等の微細なテクスチャーをスキャンし、3Dデータ化して製品に反映できるなど、従来設計が難しかった手触り感を表現できます。また切削加工、3Dプリンター用のデータも作成できます。

- 測定範囲:W140×D105×H80mm(小レンズ)  
W325×D240×H200mm(大レンズ)
- 最小点間距離:0.042mm(小レンズ)/0.100mm(大レンズ)
- メーカー:Steinbichler
- 機種名:COMET L3D 8M

### デジタル撮影システム(更新)



高画質デジタルカメラ、照明機材、画像編集用パソコンを備えた撮影スタジオ設備。大判ポスターの印刷用写真等、従来できなかった高画質撮影が可能です。

- 有効画素数:5060万画素
- 画像素子:35mmフルサイズセンサー
- メーカー:キャノン
- 機種名:EOS-5Ds

### リニューアルオープン記念

## 3Dプリンター活用セミナー

[期日] 2016年2月24日(水)

[会場] 富山県産業高度化センター 2F会議室

コンセプトカーデザインに見る  
未来社会と  
3Dプリンターの可能性

【講師】

松岡 智仁 (まつおか・ともひと)

トヨタ自動車株式会社グローバルデザイン企画部  
デザイン戦略室主幹



水素で走るコンセプトカー「TOYOTA FCV-PLUS」と「LEXUS LF-FC」を事例に、デザインコンセプトや開発における3Dプリンターの活用についてお話いただきました。

2030年を想定した「TOYOTA FCV-PLUS」では室内全体が3Dプリンターによる生産を前提にしているなど、近未来のものづくりがリアルなものとして実感できる報告がなされました。

プロダクトデザインの  
フォーム検討における  
3Dプリンター活用の有用性

【講師】

澄川 伸一 (すみかわ・しんいち)

プロダクトデザイナー



リオデジャネイロ五輪の公式卓球台をデザインした澄川氏は、比較的早期からデザイン作業に3Dプリンターを導入。

お酒のグラスのデザインでは3Dプリンターで何度も試作し実際に飲んで最適条件を探り出すなど、初期試作への活用方法を紹介。その有用性を唱える一方で、「鉛筆と紙によるスケッチが何よりも大事」とデザインの基本にも言及されました。